

II 各教科の正答率、誤答例及び所見

2 社会

(1) 正答率

問題	配点	正答		一部正答		誤答		無答		通過率 率 = $\frac{\text{得点計}}{\text{人数} \times \text{配点}}$ (%)	
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)		
1	問 1	3	430	89.8%	1	0.2%	45	9.4%	3	0.6%	89.9%
	問 2	2	341	71.2%	0	0.0%	138	28.8%	0	0.0%	71.2%
	問 3 (1)	4	365	76.2%	61	12.7%	35	7.3%	18	3.8%	82.7%
	問 3 (2)	2	393	82.0%	0	0.0%	86	18.0%	0	0.0%	82.0%
	問 4	3	319	66.6%	27	5.6%	132	27.6%	1	0.2%	69.8%
2	問 1	3	433	90.4%	0	0.0%	33	6.9%	13	2.7%	90.4%
	問 2	2	351	73.3%	0	0.0%	128	26.7%	0	0.0%	73.3%
	問 3	5	134	28.0%	285	59.5%	35	7.3%	25	5.2%	63.6%
	問 4 (1)	3	317	66.2%	21	4.4%	140	29.2%	1	0.2%	68.7%
	問 4 (2)	2	289	60.3%	0	0.0%	190	39.7%	0	0.0%	60.3%
3	問 1 (1)	2	381	79.5%	0	0.0%	61	12.7%	37	7.7%	79.5%
	問 1 (2)	4	17	3.5%	155	32.4%	250	52.2%	57	11.9%	18.7%
	問 2	3	262	54.7%	29	6.1%	147	30.7%	41	8.6%	57.7%
	問 3	2	197	41.1%	0	0.0%	281	58.7%	1	0.2%	41.1%
	問 4	2	197	41.1%	0	0.0%	281	58.7%	1	0.2%	41.1%
	問 5	3	219	45.7%	0	0.0%	260	54.3%	0	0.0%	45.7%
4	問 1	3	213	44.5%	4	0.8%	213	44.5%	49	10.2%	45.0%
	問 2	2	280	58.5%	0	0.0%	199	41.5%	0	0.0%	58.5%
	問 3	2	246	51.4%	0	0.0%	233	48.6%	0	0.0%	51.4%
	問 4	5	170	35.5%	171	35.7%	93	19.4%	45	9.4%	54.1%
	問 5	3	122	25.5%	1	0.2%	353	73.7%	3	0.6%	25.6%
5	問 1	3	401	83.7%	0	0.0%	77	16.1%	1	0.2%	83.7%
	問 2	4	283	59.1%	78	16.3%	111	23.2%	7	1.5%	67.2%
	問 3	5	150	31.3%	216	45.1%	82	17.1%	31	6.5%	52.2%
	問 4 (1)	3	234	48.9%	31	6.5%	210	43.8%	4	0.8%	51.9%
	問 4 (2)	5	219	45.7%	66	13.8%	80	16.7%	114	23.8%	53.1%
	問 5	3	352	73.5%	0	0.0%	127	26.5%	0	0.0%	73.5%
	問 6	2	324	67.6%	0	0.0%	153	31.9%	2	0.4%	67.6%
6	問 1	3	408	85.2%	0	0.0%	54	11.3%	17	3.5%	85.2%
	問 2	3	402	83.9%	0	0.0%	72	15.0%	5	1.0%	83.9%
	問 3 (1)	3	368	76.8%	0	0.0%	106	22.1%	5	1.0%	76.8%
	問 3 (2)	3	194	40.5%	0	0.0%	184	38.4%	101	21.1%	40.5%
	問 4	3	388	81.0%	0	0.0%	82	17.1%	9	1.9%	81.0%

(小数点以下第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

(2) 各問題の誤答分析及び所見

平均点は、63.7点(昨年度49.1点)であった。標本の通過率は62.5%(昨年度48.7%)で、標準偏差は22.36であった。分野別の通過率は、地理的分野75.1%(昨年度68.2%)、歴史的分野45.5%(昨年度37.2%)、公民的分野62.3%(昨年度45.7%)という結果であった。また、大問6の総合問題の通過率は73.5%(昨年度36.0%)であった。

大問1の問1は、世界の地域構成についての問題である。今年度は、北アメリカ大陸の名称を答えさせるもので、通過率は極めて良好であった。この項目における知識の定着がみられる。大問1の問3、大問2の問4(2)は景観写真と雨温図、景観写真と地図など、複数の資料を関連付けて答える問題である。資料活用能力の育成に継続して取り組ませたい。

大問4は近現代の日本と世界に関する出題であるが、問5のような歴史の大きな流れの理解をみる問題

の通過率が低かった。歴史的事象については、用語の暗記だけでなく、因果関係などと関連付けて理解させることが大切である。

大問5は公民的分野の出題であるが、問2の裁判員制度の問題の通過率はおおむね良好であり、基本的な知識は定着しつつある。

文章を記述させる問題は6問あったが、このうち、無答率が20%以上あったものは1問であった。生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばす指導に引き続き取り組んで欲しい。

1 地理的分野において、日本や外国について調べる学習の場面を想定し、世界の様々な地域や、世界と比べた日本の地域的特色に関する基礎的な知識とともに、地図や統計資料などの資料を活用する技能や思考力・表現力をみようとしたりしたものである。全体の通過率は79.7%と良好であった。

問2 緯度と経度を用いて示された地点を地図中から選ぶ問題で、資料活用の技能や知識・理解をみようとしたりしたものである。通過率は71.2%と良好であった。誤答のうち、61.6%がAを選択していることから、緯度を用いた表し方は理解しているものの、経度を用いた表し方、特に本初子午線の位置やこれを基準とした表し方を理解させる工夫が必要である。日常の授業で緯度と経度による表現を意図的に用いて理解を深めさせる必要がある。

問3(2) 4枚の景観写真の中から、ローマが属する地中海性気候の特色を示すものを選ぶ問題である。通過率は82.0%と極めて良好であった。景観写真の読み取りの技能は、系統性に留意して計画的に指導することが求められている。自然の様子(植生や地形)、人々の暮らし(服装、住居、食事)など、写真を読み取る際の視点を明確にすることで、地理的事象を読み取ったり、地域的特色に結びつく事象を見いだしたりすることができるようにするとともに、1枚の写真から有用な情報を収集する視点を身に付けさせたい。

問4 日本と4か国との輸出入総額と品目の割合の変化について示した資料から、読み取れる内容をすべて選ぶ問題である。通過率は69.8%とおおむね良好だった。誤答にはイを選んだものが多かった。イは、カナダにおける日本からの輸入総額のうち自動車の輸入割合に着目した簡単な計算を要する選択肢である。日頃から統計資料に親しみ、表題や単位を意識して、資料の内容を深く読み取る習慣を身に付けさせたい。

2 地理的分野において、日本の自然環境やある地域の産業などについて調べる学習の場面を想定し、日本の諸地域や地域的特色、身近な地域の調査に関する基礎的な知識とともに、地図や統計資料などの資料活用の技能や思考力・表現力をみようとしたりしたものである。全体の通過率は70.8%と良好であった。

問2 グラフ1を読み取り、日本の農業の特色を道県別に判断する問題で、資料活用の技能をみようとしたりしたものである。通過率は73.3%と良好であった。誤答を分析すると、その多くが普通畑と樹園地の割合の判別を誤ったものであった。授業では、それぞれの都道府県の特徴的な農産物を示した統計などの資料から、その全体像をとらえるなど、資料活用の技能を高める工夫が必要である。

問3 図とグラフを読み取り、石油化学コンビナートが海岸部に集中している理由の説明と、工業地域が集中する地域の名称を答える問題であった。通過率は63.6%とおおむね良好であったが、一方でグラフから読み取った内容に触れていないなど、理由の説明が不十分で部分点となったものが多かった。日々の授業で、資料から読み取ったことや思考したことを正しく表現させるための指導の工夫が必要である。

問4(1) 地形図の読み取りについての問題で、通過率は68.7%とおおむね良好であった。誤答で多かったものは、警察署や消防署など施設の地図記号の読み取りと、等高線に関するものであった。施設の地図記号の中にはまぎらわしいものも存在するが、地域調査は地理的関心を高めたり学習の理解を深めたりするうえで効果的であり、必ず取り組ませたい。また、2地点の高さを比較する問題など等高線を読み取る技能を習得させるための指導の工夫も必要である。

問4(2) 資料の写真と模式図を読み取り、山陰地方における冬の季節風とそれに対応するための家屋の特徴を判別する問題で、通過率は60.3%とおおむね良好であった。誤答の多くは、冬の季節風を北風とだけとらえたため、北と東に高い樹木がみられるアとイの判断を誤ったものと思われる。日本のみならず、世界各地の生活習慣や文化を、その地域の自然環境との関わりから理解させる指導の工夫が必要である。

3 歴史的分野の近世までの問題である。全体の通過率は44.3%とやや低かった。古代から近世までの資料を地図上にまとめる活動を通じて、我が国の歴史の大きな流れに関する基礎的・基本的な内容の理解とともに、歴史に対する思考力・表現力をみようとしたりしたものである。

- 問1 (1) 大和政権に関する問題である。大和政権については奈良盆地を中心とする地域に、王を中心として、近畿地方の有力な豪族が支える強力な勢力であると学習している。通過率は79.5%と良好だった。
- 問2 奈良時代の人々の生活に関する問題である。通過率は57.7%とあまり芳しくなかった。「調」については、まとめだけではなく資料からも判断することができる。歴史的分野でも、教科書等に示されている様々な資料を活用して、平素から多面的・多角的に考察させる指導の工夫が求められる。
- 問3 室町時代の文化に関する問題である。通過率は41.1%とやや低かった。北山文化の特色を示す事柄が文や資料に含まれていることに着目して正答を導き出したい。誤答は、各選択肢とも、ほぼ同じ割合で分散していたので、北山文化の特色に関する理解が不十分であったことが考えられる。各時代の文化については、文化財と政治や社会との結びつきを強く意識できるような指導をすることが求められる。
- 問4 朱印船貿易に関する問題である。通過率は41.1%とやや低かった。選択肢は、古代から近世までの貿易に関するものであり、各時代の特色の1つとして学習している。誤答のうち56.9%が日明貿易に関するものを選択していた。
- 問5 享保の改革に関する問題である。通過率は45.7%とやや低かった。幕府政治の改革のうち、公事方御定書を定め目安箱を設置したのは、享保の改革のときである。江戸幕府の政治改革については、それぞれの特色を表にまとめさせた上で比較させるなどの指導が考えられる。その際、それぞれの改革の時期における、外交や内政上の課題や背景などもあわせてまとめさせるとともに、改革を行った原因や理由を考えさせたい。

④ 近現代の日本と世界に関して、政治、経済及び外交などの各分野についての基礎的な知識や歴史の大きな流れを広い視野から捉える力をみようとしたものである。全体の通過率は46.8%とやや低かった。

- 問1 自由民権運動とこれに対する政府の対応をめぐって、その両方に関わりを持った大隈重信を答える問題である。通過率は45.0%とやや低く、無答率も10.2%であった。誤答は、板垣退助が最も多く、次いで大久保利通、西郷隆盛であった。
- 問3 大正時代から昭和初期の政治や社会の変遷に関する問題である。通過率は51.4%とあまり芳しくなかった。誤答はおおむねアとエに分散していた。明治、大正、昭和の大きな歴史の流れを理解させるためには、歴史的事象を個々に覚えさせるのではなく、同じ時代の政治や社会、経済及び文化等を関連付けながら理解させるなどの指導の工夫が求められる。
- 問4 満州事変とこれに関連する国際情勢についての総合的な理解をみる問題である。通過率は54.1%とあまり芳しくなかった。このうち柳条湖の位置を答える問題については、誤答はおおむねアとウに分散していた。歴史的分野の学習でも、地図を活用し、地理的分野との関連を図ることが必要である。また、国際連盟の勧告に対する日本の外交上の決定について説明する問題では、勧告を受け入れたか否かだけを答えたものや、逆に勧告に対する決定でなく対満州政策について説明したものが見られた。「なぜ」「どうして」などの課題意識を持たせ、歴史の因果関係に触れつつ、課題を解決していくような形態の学習方法も必要である。
- 問5 現代の日本と国際社会との関係について、日本の国際社会への復帰を軸として考えさせる問題である。通過率は25.6%と低く、誤答も様々であった。比較的多かった誤答は、イの朝鮮戦争とエのサンフランシスコ平和条約の順序を逆にしたもので、朝鮮戦争と日本の独立回復を関連付けて理解していないことが要因と考えられる。日本の政治や外交が世界の動きの中で展開していることを理解させるよう、歴史的事象間の関連付けを意識させながら指導することが求められる。

⑤ 生徒がテーマを設定して調べる場面を想定し、日本の政治や経済などに関する基礎的な知識とともに資料活用の技能や思考力・表現力をみようとしたものである。全体の通過率は62.3%とおおむね良好であった。

- 問1 裁判事例を通して「新しい人権」に関する理解をみる問題である。通過率は83.7%と極めて良好であった。「新しい人権」には、どのようなものがあり、なぜ主張されるようになったのかを考えさせる指導が求められる。
- 問3 国会の地位としくみに関し、選挙の実施年月を通して、衆議院と参議院の違いについての知識・理解をみる問題である。通過率は52.2%と今一步であるが、正答と一部正答を合わせると76.4%の受検生が得点している。参議院議員の選挙の実施年については36.8%の受検生が誤った解答をしていた。

問4(2) 所得税における累進課税について、課税方法の特徴を記述する問題である。通過率は53.1%とあまり芳しくなかった。正答に至らなかったものには、所得に応じて税が増減することは記述しているものの、税率について触れていないものが多かった。また、無答率も23.8%であった。用語について、説明するだけでなく、生徒自らが理解したことを表現させるような学習を、日頃から取り入れることが必要である。

問5 景気と財政政策についての理解をみる問題である。通過率は73.5%と良好であった。誤答の77.3%が「デフレーション」は選択できたものの、不景気における一般的な財政政策について理解できていないものだった。経済の概念を学習する際は、生徒自らが概念を説明したり、生徒間で話し合わせたりすることで、思考力・判断力・表現力の育成に努める工夫が必要である。

6 北陸新幹線沿線の各県について調べる学習を想定し、地理的分野・歴史的分野・公民的分野の3分野に関連した基礎的な知識とともに、資料活用の技能や思考力を総合的にみよとした問題である。全体の通過率は73.5%と良好であった。

問1 都道府県の名称と位置に関する問題である。通過率は85.2%と極めて良好であった。都道府県の名称と位置や、都道府県庁所在地名は、日本の地理について関心を高めたり、学習内容を定着させたりするのに効果的であるので、必ず習得させたい。

問2 米騒動についての基本的な内容と、この出来事の政治への影響を問う問題である。通過率は83.9%と極めて高かった。大正デモクラシーの頃の国民の政治的自覚の高まりについては、政党政治の発達、民主主義思想の普及、米騒動などの社会運動の展開を通して理解させることが大切である。取り上げる内容の相互の関連を図りながら、国民の意識の変化に気付かせる指導が求められる。

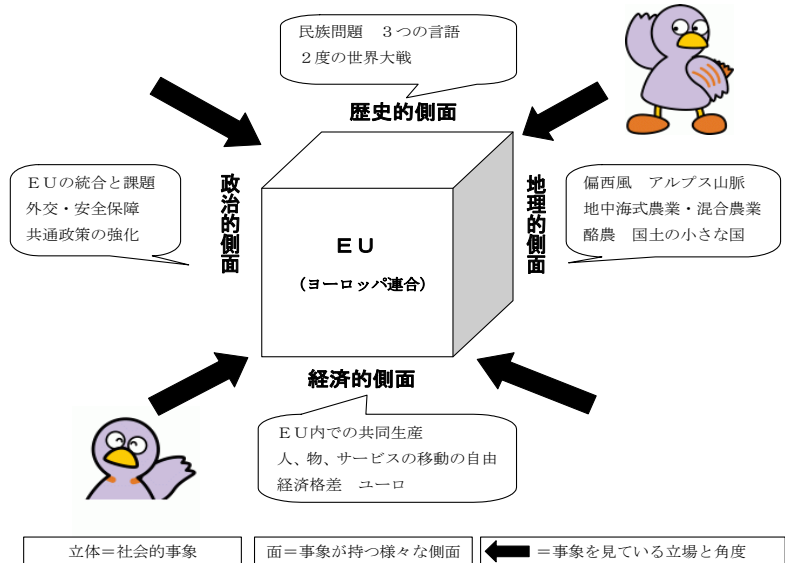
問3(2) 分国法についての理解を問う問題である。通過率は40.5%とやや低く、誤答の分散も見られた。また、無答率も21.1%と高かった。誤答で最も多かったのは「武家諸法度」であり、全体の約10%にのぼった。戦国大名が支配を確立するうえで分国法や家法などの独自の法を設けたことは重要なことである。歴史を大きな流れとして捉えさせるためにも、歴史的事象を相互に関連付けて理解させることが必要である。

問4 市場の働きと経済について、特に企業の生産の目的と、生産の集中に視点を当てた問題である。通過率は81.0%と極めて良好であった。市場経済の基本的なしくみを理解させる上で、需要と供給の関係で価格が決まるとされるが、実際には寡占市場も多く見られる。これらを理解させるには生徒にとって身近で具体的な例を取り上げることが望ましい。日頃から資料収集に努め、より身近で分かりやすい資料を用いることで生徒の理解をうながしたい。

トピック

社会科では、諸資料を多面的・多角的に考察する能力の習得が求められる。学習指導要領解説によれば、「多面的」とは学習対象の社会的な事象が様々な面をもっていること、また「多角的」とは社会的な事象を様々な角度から考察し理解すること、と示されており、これらを相互に関連付けることで社会科の基本的な能力や態度を育成することが可能であるとしている。右に示すモデルでは、EUを、歴史、政治、経済、地理の4つの側面から多面的に捉えたり、矢印が示すように様々な視点を融合して多角的にとらえたりすることを意図している。学習課題をこのように捉えさせて多面的・多角的に考察する能力を育成したい。

EUを多面的・多角的にとらえる学習のモデル



出典：坂井宏行・上谷知未・寺田康彦(2012)：多面的・多角的に考察する力をはぐくむ言語活動の工夫 研究紀要／金沢大学附属中学 54:23-36